

## 先日の出来事

竹市広幸

先日、私はあるお宅へお勤めに参りました。その家のご主人は九十歳中ほどの年齢になられます。昨年、戦後七十年ということをよく耳にしましたが、その方も戦地へと赴かれた方でした。

そんな方が「最近はお念仏の声がなくなった」と心配されておられました。私はその問いかけに、「なかなか、お念仏が湧きあがることがないですね」とお答えしました。すると、その方はピシッと一言、「湧きあがります」とおっしゃられました。そして続けて、「戦場で南無阿弥陀仏と言って亡くなった多くの方を目にしました」と話されました。その瞬間、私は頭をガツンと殴られたような思いがいたしました。それと同時に漫然とした自分自身に気が付かされました。

我々は日々、他者と比べることで自分を保ったり、肯定や否定をしながら自分の立ち処を守り生きていることが多いのではないのでしょうか。そこには、本当の自分の「生」というものが見失われることがあります。「見失う」ということは、「あたりまえになる」ということではないのでしょうか。やがて人は、あたりまえになると疑問や課題、また感謝すら消えていってしまいます。

有ることが難しいと書いて、「有難い」といいます。文字通り、いまここに有難い「生」とお念仏の中に見出していきたいものです。